

第22回

日本健康体力栄養学会大会 大会抄録集

会期

平成27年 3月14日(土)・15日(日)

会場

和洋女子大学 (千葉県市川市国府台)

会頭

湊久美子 (和洋女子大学)

～管理栄養士と運動指導者の
質向上を目指して～

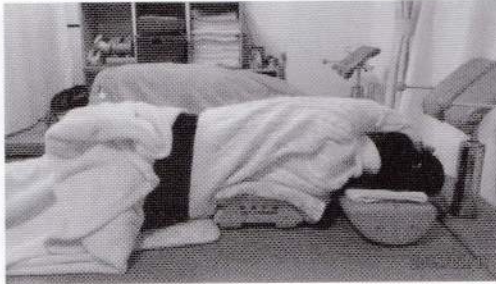


重度特発性側弯症42度が正常範囲2度に改善の症例報告

○大塚乙衛
大塚整体治療院

【目的】小学校4年で発見。都立病院にて42°の重度側弯症と診断。小学校6年の夏に手術と言われる。小学生で手術をした場合、15歳まで年2回手術をし続けるのが現代の医療である。手術は背骨への負担が大きい為、手術をしない側弯症改善RHP I療法により改善を試みた。

【方法】月1回治療を実施。矯正力があり改善できる大塚整体指導装具着用、体幹筋向上の為のそくわんエクササイズ指導、側弯症矯正具RHP I療法木型を実施。



【結果】当院治療と自宅体操により青木整形外科では38°になっていた。その後も治療を継続した結果、2°まで改善し医師からは「顕著な改善」と言われ、姿勢がよくなり身体も綺麗になった。

【写真①②は治療前の装具装着非装着。写真③④は治療後の装具装着非装着】



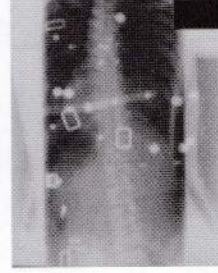
①H19/7/23 38°



②H19/7/27 14°



③H26/7/16 2.3°



④H26/7/16 -1.2°

【考察】この改善は本人の努力の結果である。装具は20時間着用。体操は両親と共に励み、当初1時間半を要していたが30分でできるようになったことを考慮すると、筋力が著しく向上したと思われる。また、装具装着時の改善効果も著しく、初診時38°が14°に。その後もさらに装具を修正、成長に合わせて3回作り直して装具治療を継続した結果、現在-1°まで改善。現在高校1年で7年間の努力の結果である。成長力を活用した側弯症改善大塚式治療により、手術をしなくても2°まで改善できることを証明した。